

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標3	ふれあいと活力のあふれるまち
基本施策1	とむにつくる住みよい地域社会の実現
施策15	交通安全
基本方針	
交通安全施設の整備を進めるとともに、福生警察署などの関係機関と連携した交通安全対策を実施し、交通事故のないまちを目指します。	

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	市内における交通事故発生件数	294 件	(平成22年)	251 件	223 件	164 件	152 件	171 件	200件以下
指標2	交通安全教室の年間開催件数	12 回	(平成22年度)	17 回	18 回	16 回	16 回	16 回	20 回

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性(必要性)	効率性(手法)	有効性(成果)	方向性	
1	防犯、交通安全及び火災予防の総合的な推進	131,500	67.8%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	交通安全施設の整備	4,514,400	98.4%	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	自転車駐車場の確保・整備	28,314,629	98.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	
4	自転車運転のルール・マナーの向上のための講習会の開催	479,000	96.2%	計画どおり完了	○	○	△	B	*

4 施策評価

① 施策の評価

交通安全対策の一環として、市民からの情報提供及び、現地調査を実施し、道路反射の新設・改良及び、区画線の補修等を行い、交通安全施設の整備を実施した。

交通安全推進の取り組みの強化に向けて、福生警察署や交通安全推進委員会と協力・連携し、交通安全運動、街頭指導、各種講習会、広報活動を行い、交通事故の防止に努め、市内における交通事故発生件数は平成28年度に増加したが、目標値 200件以下を達成することができた。

また、自転車運転のルール・マナーの向上のための講習会の開催については、小学生、中学生、高校生、一般市民など幅広い年齢層ごとの交通安全講習会などを開催したが、今後は主婦層や高齢者に特化した講習が必要である。

② 今後の方向性(改善への取組み等)

歩行者、自転車及び自動車の安全を確保するため、今後も道路の交通安全施設の整備や維持管理を図る。

交通安全対策については、交通事故のさらなる減少と重大事故の防止に向けて、関係機関などと連携し、交通安全意識の啓発に取り組むとともに、市民が安心して自転車を利用できる自転車通行環境を整備する。

自転車対策については、子どもから高齢者まで、すべての年齢層を対象に、自転車運転ルールの周知やマナーの向上を図り、自転車事故の防止に努める。また、自転車の利用環境を改善し、環境にやさしい乗り物である自転車の利用を促進するとともに、自転車駐車場の適正な管理手法について検討する。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	市民生活 部		防災安全課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	防犯、交通安全及び火災予防の総合的な推進	不明	年 継続	自治事務	直営	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	3 ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15 交通安全	事業番号	6	

2.事業の概要

事業内容	市民生活の安全を取り巻く状況の変化に応じ、推進計画を見直します。
根拠法令	
条例	羽村市防犯、交通安全、火災予防に関する条例
要綱等	

3.成果指標

成果目標	誰もが安全で安心して暮らせるまちの実現
------	---------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	防犯、交通安全及び火災予防推進会議の開催3回	同左3回	同左3回	同左3回
	委員の改選 任期2年 年末防犯等パトロール	同左	委員の改選 任期2年 同左 推進計画(第四次)の策定 (計画年度平成30年度~平成32年度)	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	100 H	1人	160 H	1人	300 H	0人	160 H
主事・主任職	1人	200 H	1人	200 H	1人	300 H	0人	200 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	194	194	194	194
人件費(係長職)	504	796	1,493	0
人件費(主任・主事職)	720	680	1,020	0
総事業費(合計)	1,418	1,670	2,707	194
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,418	1,670	2,707	194
財源内訳(合計)	1,418	1,670	2,707	194

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	30	円		
イ 対象者	56281	人における1人あたりのコストは、	30	円		
ウ 成果物	推進会議	の 出来高	3	における1 のコストは	556,667	円

※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

交通安全推進の取り組みの強化に向けて、福生警察署や交通安全推進委員会と協力・連携し、交通安全運動、街頭指導、各種講習会、広報活動を行い、交通事故の防止に努めた。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	194,000	0	194,000	131,500	67.8%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
交通安全推進の取り組みとして、福生警察署や福生交通安全協会及び交通安全推進委員会と協力・連携しながら、各講習会、交通安全運動、交通安全フェスティバルなどを開催し、交通事故防止に向けて、普及啓発活動を行った。	交通安全推進の取り組みとして、福生警察署や福生交通安全協会及び交通安全推進委員会と協力・連携しながら、各講習会、交通安全運動、交通安全フェスティバルなどを開催し、交通事故防止に向けて、普及啓発活動を行った。 また、交通安全施設の充実に向けて、街路樹などで標識の見えにくい箇所などの点検を行い、交通事故防止につなげた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

⇒

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
↓		

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 近年増え続けている自転車に関する交通事故について、福生警察署や関係機関と連携し、交通安全意識の啓発に取り組むとともに、市民が安心して利用できる自転車通行環境の整備が必要と考える。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	都市建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	交通安全施設の整備	不明	年 継続	自治事務	業務委託(一部)	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課		防災安全課				
基本目標	3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15	交通安全	事業番号 1

2.事業の概要

事業内容	歩道や道路反射鏡などの交通安全施設の点検整備を行うとともに、関係機関に対して改善を要望します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	道路施設の安全・快適な利用を提供することができる。
------	---------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	交通安全施設の設置箇所の調査・設置	同左	同左	同左
	区画線設置 延長6,000m 道路反射鏡 3箇所 (平成27年12月現在)	同左 延長6,000m 同左 5箇所	同左 延長8,000m 同左 5箇所	同左 延長8,000m 同左 5箇所
	市道第202号線歩道設置工事・用地取得・地上物件補償 L=90m幅=2.5m 信号機などの設置要望	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	4H	1人	4H	1人	4H	1人	4H
主事・主任職	2人	200H	2人	120H	2人	120H	2人	120H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	28,278	5,000	7,160	7,160
人件費(係長職)	21	20	20	20
人件費(主任・主事職)	1,440	816	816	816
総事業費(合計)	29,739	5,836	7,996	7,996
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	8,767	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	10,000	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	10,972	5,836	7,996	7,996
財源内訳(合計)	29,739	5,836	7,996	7,996

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

道路反射鏡の設置については、当初5箇所を設置を予定していたが、市民からの要望のあった44箇所について現地調査を実施し、交通安全上特に必要な5箇所に道路反射鏡を設置した。
 また、消えかけた区画線等についても、当初6,000mの表示を予定していたが、対応が必要な5,734mについて表示を行い、歩行者及び自動車の通行区分を明確にした。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	5,000,000	▲ 413,000	4,587,000	4,514,400	98.4%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
福生警察署からの意見や市民等からの要望を踏まえ、特に交通安全上必要な個所に道路反射鏡を設置し、道路環境の整備を図った。 区画線の摩耗している箇所について補修を行い、安全・安心に道路を利用できるように整備を図った。	道路反射鏡の設置や区画線の補修により、市内の交通安全対策を図った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
区画線設置 道路反射鏡設置	6,000m 5箇所	5,734m 5箇所

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、 事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</div>	
低 ←	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当		→ 高 [効率性]
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討			
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討			
		低		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長) 歩行者、自転車及び自動車の安全を確保するため、今後も道路の交通安全施設の整備や維持管理を図る。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	市民生活 部		防災安全課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	自転車駐車場の確保・整備	不明	年 継続	自治事務	業務委託(一部)	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標 3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15	交通安全	事業番号	4

2.事業の概要

事業内容	自転車駐車場の確保・整備を行います。				
根拠法令	道路交通法				
条例	羽村市自転車等の放置に関する条例				
要綱等					

3.成果指標

成果目標	市民が利用しやすいよう自転車駐車場を整備し、駅周辺の良い環境維持を図る。
------	--------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	自転車利用状況の調査	同左	同左	同左
	利用状況に対応した自転車駐車場の確保	同左	同左	同左
	市内自転車駐車場収容台数6,200台	同左6,200台	同左6,200台	同左6,200台

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	160 H	1人	260 H	1人	420 H	1人	420 H
主事・主任職	1人	240 H	1人	240 H	1人	300 H	1人	300 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	28,284	28,799	28,799	28,799
人件費(係長職)	807	1,294	2,090	2,090
人件費(主任・主事職)	864	816	1,020	1,020
総事業費(合計)	29,955	30,909	31,909	31,909
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	29,955	30,909	31,909	31,909
財源内訳(合計)	29,955	30,909	31,909	31,909

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の 出来高 における1 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

利用状況調査を実施して適正な駐車台数を確保するとともに、自転車整理員の適正な配置や自転車駐車場内の放置自転車の撤去を行うなど、自転車駐車場の環境整備を行った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	28,799,000	0	28,799,000	28,314,629	98.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
羽村駅東口第4自転車駐車場隣接箇所の羽村駅東部踏切の拡幅事業について、東京都と関係部署と協議を行い、自転車駐車場の確保に努めた。	自転車駐車場が誰もが平等に使用できるように、ルールやマナー違反の自転車利用者に対し、警告看板の設置を行った。また、自転車駐車場のスペースを確保できるよう、樹木や雑草の除去を行った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
市内自転車駐車場収容台数	6,200台	⇒ 6,200台

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性														
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">↑</td> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低 ←</td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table> </td> <td style="text-align: center;">→ 高 [効率性]</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> <td></td> </tr> </table>	↑		↓	低 ←	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		→ 高 [効率性]		↑		A
↑		↓														
低 ←	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		→ 高 [効率性]								
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当															
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討																
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討																
	↑															

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
現在、自転車駐車場の利用者に対し、自転車駐車場の環境整備や自転車整理員の適正な配置を行い、誰もが利用しやすい駐車場の確保に努めているが、今後は、自転車駐車場の利用環境の拡充に向けて、総合的な自転車駐車場の運営や方向性について、検討する必要があると考える。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	市民生活 部			防災安全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	自転車運転のルール・マナーの向上のための講習会の開催	不明	年 継続	自治事務	業務委託(一部)	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15	交通安全	事業番号 2

2.事業の概要

事業内容	各種講習会を開催し、子どもから高齢者まで、自転車運転のルール・マナーの向上を呼びかけます。
根拠法令	道路交通法
条例	東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例
要綱等	

3.成果指標

成果目標	交通安全講習の年間開催件数 18回 (平成29年度)
------	----------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	事業内容 事業量等	平成27年度(現況)	3か年計画		
			平成28年度	平成29年度	平成30年度
	街頭指導(随時実施)	同左	同左	同左	同左
	小学生を対象とした自転車運転免許制度の運用 7回	同左 7回	同左 7回	同左 7回	同左 7回
	中学生を対象としたスクエアードストレート技法による交通安全教室 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回
	高齢者向け自転車安全利用講習 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回
	自転車マナーアップ指導 2回	同左 2回	同左 2回	同左 2回	同左 2回
	羽村高校交通安全指導 3回	同左 3回	同左 3回	同左 3回	同左 3回
	交通安全教室 2回	同左 2回	同左 2回	同左 2回	同左 2回
	主婦層への交通安全指導 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	80 H	1人	100 H	1人	100 H	1人	100 H
主事・主任職	1人	160 H	1人	160 H	1人	160 H	1人	160 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	498	498	498	498
人件費(係長職)	404	498	498	498
人件費(主任・主事職)	576	544	544	544
総事業費(合計)	1,478	1,540	1,540	1,540
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,478	1,540	1,540	1,540
財源内訳(合計)	1,478	1,540	1,540	1,540

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円

イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円

ウ 成果物 の 出来高 における1 のコストは 円

※ 対象者:

平成28年度 【事後評価】

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか)

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

福生警察署及び羽村市交通安全推進委員会に協力をいただき、市内小学校において小学生自転車安全教室、羽村第三中学校で中学生交通安全教室、自転車マナーアップ指導、羽村高校の交通安全指導、春と秋の全国交通安全運動に伴う交通安全講習会を実施し、自転車の交通ルールの遵守やマナーの向上に向けて取組みを行った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	498,000	0	498,000	479,000	96.2%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
自転車運転の交通ルールの遵守及びマナーの向上に向けて、子どもから高齢者まですべての方に講習会を呼び掛けたが、高齢者に対しての講習会が開催することができなかった。しかし、主婦層への交通安全講習会を開催することができた。	今年度は、小学生、中学生、高校生、一般市民に対し、自転車の交通ルールの遵守やマナーの向上に向けた指導を実施したが、高齢者及び主婦層に特化した、自転車の交通ルールの遵守やマナーについて、指導ができなかった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
交通安全講習会	18回	16回

Check【評価】

8.評価

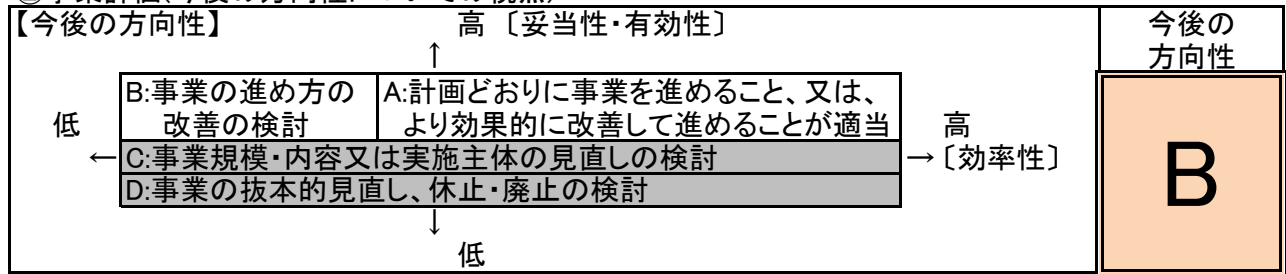
①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

毎年度、様々な自転車対策事業を継続して実施しているが、自転車の安全対策は、これから更に必要性が高まることが予想させるため、事業内容の充実とともに、対象範囲や開催回数をさらに広げて実施することが必要と考える。